

Kpac Go! Go!

ケーパック ゴー/ゴー!

特定非営利活動法人
金光教平和活動センター
〒719-0111
岡山県浅口市金光町大谷338番地
TEL 0865-42-3434
FAX 0865-42-6034
E-mail kpacgogo@nifty.com
URL <http://www.konko.org/kpac/>

KPAC

Vol.16

1.Apr.2013

—— フィリピン SRDコンコウキョウセンターで虫歯予防プロジェクトがスタート ——

KPACとDNow（歯科ネットワーク岡山から世界へ）は、3月8～9日、マニラのSRDコンコウキョウセンターの幼児150人を対象に無料の歯科クリニックを行いました。

◆DNowはこれまでベトナムのストリートチルドレンを対象に無料の歯科治療ボランティアを行ってきました。ベトナムのストリートチルドレンは、寺院やボランティアの家庭に保護され、学校に通い、一定年齢まで職業訓練を受けています。しかし、歯科医師不足で、口腔の健康管理は不十分で生活指導も徹底されていません。日本なら簡単な治療で済む虫歯も、現地ではすぐ抜歯するという状況です。そのため、現地NGOと協力して、正しい歯磨きの指導や治療を行い、子ども達の成長・発育・自立を支援しています。



診察する中條DNow理事長

◆実施後、DNowとのミーティングでは、SRD施設の使いやすさ、その準備にあたったスタッフの対応力などもよく、第1回目として問題点はないといえるほど上手くいった。ただ、ベトナム同様、フィリピンの幼児の歯はかなり悪く、きちんとした歯磨きの習慣がないことに加えて、甘い物を食べている食生活に問題があるように指摘されました。帰国後、検診結果とアンケートデータの分析を進め、フィリピン子どもへの虫歯予防に役立てたいとのことでした。

◆今回の歯科クリニックを実施して、SRDコンコウキョウセンターのスタッフも正しい歯磨きの仕方を知らなかったことが分かりました。さっそく、読み書きそろばん等のカリキュラムに歯磨き指導を加えて、子ども達の虫歯予防に努めることになりました。

また、今回のプロジェクトに協力された小林歯科医師は、「フィリピンのためになることなので、今後も協力は惜しまない」と大変喜ばれました。

今後、DNowは、フィリピンでのプロジェクト体制を整え、KPACと連携して継続的に支援を行う予定になっています。



受付。名前と顔写真を照合させます



フッ素塗布する小林歯科医師

◆DNowは活動をフィリピンにも拡げたいということで、一昨年からその準備を進めてきました。昨年7月にはKPACが運営するマニラ市内とセブ市内の保育施設の視察を杉本専務理事が同行し、今年3月、現地で開業している小林歯科医院の協力を得て、初めての協働プロジェクトが実施されました。

3月8日午前、SRDコンコウキョウセンターの5～6歳児50人を対象に、きちんと歯磨きをした場合と虫歯が多い場合の違いを写真で比較説明し、模型を使って正しい歯磨きの仕方を教わりました。その後、子ども達は問診票を持って、受付→診察→口腔写真の撮影→フッ素塗布→生活習慣アンケート→歯ブラシとおもちゃをもらって終了。8日午後は3～4歳児50人、9日午前は4～5歳児50人を対象に同様の歯科クリニックを行いました。



口腔写真の撮影。
デンマーク人ボランティアも手伝い



生活習慣や好き嫌いをアンケート



全スタッフで記念撮影

支援国の子どもたちの様子

◆フィリピン



名前：トム・コネホス TOM CONEJOS
12歳（小学校5年生）

家族：父、母、7人兄弟の5番目

住所：マニラ市トンド、シティオ・ダマヤン
（ゴミ捨て場のスラム）

トムは背丈も低くやせ細っていますが、素直で穏やかに話します。家は、小さな木の棒を組み合わせ、古い板で壁を囲い、床は、大雑把に釘で打ち付けられています。彼らが動くと家は揺れます。家族が住むと

ころはゴミ収集場所です。地域住民の平均収入は、1日120ペソ（240円）から、200ペソ（400円）です。住民のほとんどの仕事はゴミ拾いです。少しお金がある人は炭焼きで副収入を得ています。

月曜日から金曜日は朝7時に起床。朝食はいつもご飯と干し魚です。水は遠方から買ってきます。5ガロン（約4.5キロリットル）容器が3ペソ（6円）です。配達してもらると10ペソ（20円）かかるので、家族のために毎日水を買に行きます。水は最も必要で、飲み水、料理、洗濯、シャワー、そして、学校に行く前に歯を磨くにも要ります。だから、トムは重要な仕事として毎日頑張っているのです。

11時に昼食（ご飯と干し魚）をとり、毎日25分かけて学校へ行きます。生徒があまりにも多いため小学校は二部制なのです。学校に行くには汚い道路を抜け、煙が立っている炭の山を横切り、猛スピードでトラックが走っている国道10号線を通り越して学校にたどりつくのです。だから、彼の洋服はいつも炭の匂いがします。

午後6時前に帰宅します。午後6時30分、母親が売る露店の串焼きの準備を手伝います。午後8時、夕食（ご飯と干し魚）を食べて、学校の宿題をします。時々お兄さんの家でテレビを見せてもらいます。午後9時に就寝します。（水不足なのでシャワーはときどきです）

土曜日と日曜日は朝10時に起きます。朝食後、父親と一緒に木材を買いに行きます。炭を作るためのものです。トムは炭焼き小屋に夜まで残り、山積みした木炭の世話をします。代わりに人がいれば、1回だけ食事をとることができます。木炭を作る材木が買えないときは、友だちとバスケットボールをしたり、レンタル料が1時間10ペソ（20円）の自転車を借りてあたりを乗りまわします。

◆タイ

名前：ヂーラワン スィリプーバーン
Jierawan Siripooban 10歳（小学校4年生）

家族：父、母、妹1人

現住所：バンコク・クロントイ70ライ地区

ヂーラワンが4歳の時、一家はロブリー県からバンコクに引っ越してきました。干ばつなどの影響で稲作をすることができなくなり、暮らしを立てることが難しくなったためです。工場など働く場所がなく、そ

のため、バンコクに仕事を求めて来るしかなかったのです。母親は地区の中で物売りをするようになり、父はバイクタクシーの運転手と日雇いの建設現場で働いています。両親にはロブリー県で農業をしていたときの借金があり、その返済をしなければなりません。

私は、7時30分に登校します。朝から午後まで様々な科目を勉強します。お昼休みは友達と遊びます。特に芸術が好きです。放課後学校から帰ってきた後は、宿題をします。それが終わると家事の手伝いです。例

えば、掃き掃除、拭き掃除をし、妹の面倒をみて、母の商売を手伝います。空いている時間は、近所の友達と遊びます。

引っ越してきて、今住んでいるクロントイ地区は好きです。勉強ができるし、新しい友達ができる。田舎



左から2番目がチーラワン

に住んでいる時とは違って、友達の家がたくさんあるから楽しいのです。田舎は家と家が離れており、そこまで親しい付き合いはありませんでした。今の70ライ地区（Jierawanが住んでいる地区）は、地区内にたくさんの方が暮らしており、何かあった時は、近所の人との助け合いがあるので生活しやすいです。一番うれしかったのは、両親とプールやアトラクションがたくさんある遊園地に行ったことです。

でも、いいことばかりじゃありません。生活費は上がっているし、地区内には麻薬があり、泥棒がいることです。警察が麻薬を常習している泥棒を全て捕まえてくれれば、私の自転車も盗まれなくてすんだのです。

将来は先生になりたいです。賭博や麻薬などに染まらず、よい大人になるように、子どもに教えようと思っています。

◆カンボジア



名前：チョーム・ラックスメイ Chhom Racsmei
10歳（小学校4年生）

家族：父、母、姉1人、妹1人

住所：コンボンチュナン県プリクメール村

私のお母さんは主婦をしています。お父さんは工場で働いています。たばこを吸いますが、お酒は飲みません。お父さんとお母さんは今までケンカをしたことがありません。姉妹揃って学校に通うことができます。でも、4年後、私が7年生か8年生になるころには、両親は私たちに学校へ行くことをやめて、被服工場でも働いてもらいたいと思っています。なぜって、家が貧しいので、働けば家族を助けることができるから

です。

毎日学校へ出かけるとき、お母さんは私に500リエル（10円）くれます。私は学校で勉強ができて、困ったときには助けてくれるたくさんの友達がいるので、とても幸せです。私は友達が好きです。毎週火曜日に図書室へ行き、たくさんの絵本を読みます。図書室には、絵本、物語本など、いろいろな本がたくさんあります。休み時間には友達とLot Antak（2つのグループに分かれてする遊び。片一方のグループが手をつなぎ、円になって地面に座る。もう一方のグループが、座っている子どもたちを飛び越えて、円の中に入ろうとする。座っている子どもたちは、つないだ手を上げて飛び越えられないようにする）やロープ遊びなどをします。放課後帰宅すると、両親と一緒に畑に出かけて手伝いをします。夜には宿題と読書を読みます。

教室では鉛筆や消しゴム、クレヨンや定規がなくなると友達に腹を立てたりします。成績が悪かったときはとても悲しいです。なので、毎日一生懸命勉強します。

将来、私は学校の先生になりたいです。そして、私が慣れ親しんだこの地域の子どもたちに勉強を教えたいです。私は平和で豊かに暮らしていきたいです。

トピックス

RNN東日本大震災3回忌慰霊祭

KPACが参加する岡山県の宗教者ら有志による「人道援助宗教NGOネットワーク（RNN）」は3月11日、岡山県北区の黒住教本部・神道山日拝所でRNN東日本大震災3回忌慰霊祭を仕えました。2時46分の黙祷後、RNNとしての支援の取り組みが紹介され、天台宗・金光教・立正佼成会・カトリック・真言宗・黒住教の参加各教団が順にそれぞれ10分程度で慰霊と復興祈願を行いました。KPACからは、竹部理事長・杉本専務理事・利光事務局員が参加しました。



RNN慰霊祭



支援品をパックする小学6年生と先生

世界平和を祈るつどい

12月9日正午から、金光教非戦・平和ネットとの共催で、金光教本部修徳殿を会場に第11回「金光教世界平和を祈るつどい」を開催し、約200名が参加しました。

今回は、「命をつなぐ平和のバトン-今こそ生き方を見つめて」をテーマに、開会后、「原発問題を信心で考えていこう」との趣旨を説明。また、後援団体である福祉会菩提樹の佐藤和喜雄さんの「平和アピール」では、福島やチェルノブイリの子どもたちの詩を紹介され、「原発と原爆は一体なので廃絶すべき」とアピールされました。また、エンディングの「空より高く」は金光混声合唱団の手話付きの斉唱でした。

フィリピン・ミンダナオ島 台風24号被害への緊急支援

昨年12月4日、フィリピン南部ミンダナオ島に台風24号が上陸し、深刻な被害をもたらしました。フィリピン国家災害対策当局の発表によると、12月16日現在で、死者1,020人、行方不明者800人余り、被災者は計620万人に達し、犠牲者はさらに増えるとされています。

ミンダナオ島での活動のパートナーであるRecap財団から現地事務所のKPACIOに緊急救援要請がありました。金光教団の災害救援・社会活動資金から587,725円の寄託を受け、ダバオ・デル・ノルテ州とスリガオ・デル・スール州の889家族に食糧支援を行いました。また、精神的なショックを受けた子どもたちに精神的ケアも実施しました。



世界平和を祈るつどい

＊一食をささげるチャリティー献金へご協力を＊

東日本大震災などの影響で「一食をささげるチャリティー献金」が数百万円と大幅に減っています。フィリピン・タイ・カンボジアでは、満足な食事をとることができず、教育も受けられない子ども達が大勢います。その子達に教育の機会を提供する大切な取り組みです。いっそうのご協力をお願いします。